

事業実績報告書

様式 2
(2020年度)

※この報告書は、なごや環境大学のウェブサイト上に記録として掲載されます。

講座番号	B-34	講座名	干潟の学校 ～藤前干潟でいろ～んなことしましょ！～
記載日	2021/3/2	団体名・企業名	NPO法人藤前干潟を守る会

〈講座全体の概要〉(300字程度)

秋冬は大潮でも昼間にほとんど干潟は出ないため、春夏のようにドロ干潟に入っただけの観察会ではありませんが、秋冬には秋冬の楽しみや魅力があります。稲永ビジターセンター側では、昨年に引き続きヨシ原サイドでも英語のみのプログラムを開催したり、年一回のカワザンショウガイ調査を実施したり、バレンタインデーにちなんでカモのカップルを中心に観察をしました。

藤前活動センター側では、半世紀前まで豊かな漁場であったことや海苔養殖も盛んだったことを伝え、海苔すき体験を通して、もう一度豊かな藤前干潟を取り戻したいというメッセージを伝えました。なお、例年伊勢湾産の海苔をその場で味わうのですが、新型コロナウイルス感染拡大予防のため試食を中止したのが残念です。



11月1日 稲永公園ヨシ原にて英語だけで開催。カモがたくさん観察できました。

2月11日 藤前活動センターにて海苔すき体験をしました。暖かくて「海苔すき日和」でした。

〈企画・運営者の声(感想)〉(350字程度)

自然相手の活動は天気に左右されます。今年度は「三密回避」も加わり、例年以上に気を遣うプログラム開催でした。特に第1回「Crab Paradise!」は小さいお子さんも多くフレンドリー且つ元気いっぱい本当に冷や冷やしました。第2回「カワザンショウガイ調査」は、ここ10年で最も寒いかもという一日でした。それでも三密を防ぐため、北西の強い寒風を背に受けて外でソーティングしたりお弁当を食べる姿もありました。

それとは対照的に第3回の「海苔を作ろう!」はポカポカと暖かい日差しにも恵まれ、まさに「海苔すき日和」。第4回の「カモのカップルを探せ!」もとても暖かく、カモ以外にも多くの鳥を観察できたうえ、暖かさに誘われたヤマトオサガニやチゴガニまで見られるという、充実したバレンタインデーの観察会となりました。

〈受講者の声(実感した反応及びアンケートより)〉(3~5点、計350字程度)

- ・ It was really good for both adults and kids. We could learn a lot!
- ・ 子供にも分かりやすいよう、話して下さりよかった。
- ・ なかなかできない海苔すき体験ができ、すごく良かったです。昔の人は全てが手作業だったことを改めて学び、勉強になりました。食べるのがたのしみです!! 手巻き寿司をしようかな(笑)
- ・ カモのカップルが見れたので満足です。いろいろ勉強になりました。
- ・ 子供が干潟のサバイバルというマンガを見て興味を持ったので、また観察会に参加したいです。